

成東湿原のトキソウ

夏井高人

春になるとホームセンターの園芸コーナーなどでトキソウ (*Pogonia japonica* Reichenbach f.) の鉢植えが売られていることがあるし、山野草店でも苗が販売されていることがある。ピンク色のものと白色のものがあり、どちらも小さいながらカタレアの仲間の花に似たかたちをした美しい花を咲かせるので人気がある。しかし、小さな鉢の中での栽培は困難を極め、普通は失敗する。おそらく、相当広い敷地面積を有する人工湿地でも構築しない限り、人工的な栽培は難しいのではないかと思われる。私がこれまで実際に観たものとしては、京都府立植物園と高知県立牧野植物園における栽培例があるが、どちらも比較的広く浅い沼のような湿地環境を人工的に構築した上で、その岸辺にトキソウを植えて栽培するというやり方だった。この方法は、普通の人にとっては物理的に非常に難しい方法で、とりわけマンション住まいの人にとっては不可能に近い。花を咲かせることに成功しても、何年にもわたって同一の株を栽培し続けることが難しいのだ。

そのようなわけで、トキソウについては苗を購入して栽培することをあきらめ、自生地で観察することにした。

ところで、トキソウは、日本だけではなく、中国、朝鮮半島、ロシア（極東地域）に広く分布し、湿地に地生して生育する植物ということなので、本来は北方系の植物なのだろうと推定される。実際、日本国内では低地のトキソウ自生地は比較的少なく、山地湿原や高層湿原などのほうが多い。これは、日本の産業化によって低地における湿地が破壊されたことによる影響もあるのだろうが、もともとそういう植物であり、日本の低地における自生地は氷河期の残存物的なものではないかとも考えられる。

そのため、私が日帰りで観察に出かけることのできる範囲内で一体どこに自生地があるのかが最大の課題だった。しかし、さすがインターネットの時代とでもいうべき

か、ネット検索をしてみたところすぐにそれが分かった。千葉県成東湿原に自生地があり、地元の保護活動団体によって大事に守られているというのだ。そこなら自家用車を運転して観察にでかけることができる範囲内だ。成東湿原は、イシモチソウ、モウセンゴケ、ミミカキグサなどの食虫植物の自生地としても有名なところで、それゆえに日本で最初に天然記念物に指定された場所のひとつだ。

このようにして、トキソウ観たさに成東湿原に何度も通うことになった。ネットで調べて大まかな開花時期は判っている。しかし、年によって開花時期がずれてしまうことは当然のことだ。それに加え、通っている間に他の小さな植物達にも興味がわいてきてしまい、春から秋まで継続して観察してみたいという気持ちにとらわれてしまうことになった。しかも、それは何年かにわたって続くことになった。

成東湿原のトキソウは、5月ころに開花する。「以前と比較すると随分と少なくなった」という人もいるけれど、私にとっては素晴らしい群落のように見える。明らかに極端な貧栄養状態の湿地の中で、いや貧栄養の湿地であるからこそ、より背丈が高く強い植物に圧倒されることなく、強光を好むトキソウたちが生き、そして花を咲かせることができるのだろう。

トキソウの唇弁はやや複雑な形と色彩をしており、丁寧に観察してみると随分と個体差があるようにも見える。白花は見当たらず、ピンク色の個体ばかりのようだ。とにかく可愛らしい。妻と一緒に湿原の木道をのんびりと歩きながら、「やはり自然の中で観るのが一番いいね」と何度も語り合った。

この湿原は、基本的にボランティア活動によって守られている。千葉県から予算は出ているのだろうけれど他の全ての湿原と同じように十分な予算はなく、木道も随所で傷んでいる。補修するための予算がないのだろう。それだけではなく、この湿原を湿原として維持することも本当は予算を要する。もし人工的に湿地として維持する努力をしなくなると、たちまち乾燥し、より背の高い強い植物が侵入してきて湿地植物達が全滅してしまうことになるからだ。保護された区画の外側にはヨシが繁茂してい

てオオヨシキリなどの水辺の鳥達が囀り、湿原に至る道路の両側にある田の畦にはスベリヒユやイネ科の帰化植物などがたくさん生えている。中にはとても強い植物が多い。

生態系における遷移はこの成東湿原にもあるのであり、その遷移を発生させないためには人工的な措置が必要となる。その意味では、成東湿原は自己完結型の自然の地ではなく、人間とのかかわりによって成立し維持されている半自然の地ということができる。自然保護というものの「あり方」のようなものを考える上でも、成東湿原は検討すべき素材を豊富に与えてくれる良い場所の一つだろうと思う。私自身は、理論倒れの極端な考えを嫌うタイプの人間の一人なので、そのような半自然という環境(生態系)を維持するための活動には賛成の立場をとりたい。

なお、成東湿原へ至る道は湿原の手前1キロくらいの区間で非常に狭くなっており、しかも湿原前にはほんの数台しか駐車スペースがない。そこで、別のところに自動車を駐車させ、そこから徒歩で向かうか、または、最初から自動車を使わないで電車で移動し、最寄り駅から歩くかのいずれかの方法を選択するのが適切だ。



Pogonia japonica

[参考文献]

田中知佐子ほか, 「Karyotype in *Pogonia japonica* (Orchidaceae) in Khasan District, Primorye Territory, Russia」, *Chromosome science* 8(2) pp.67-69, 2004